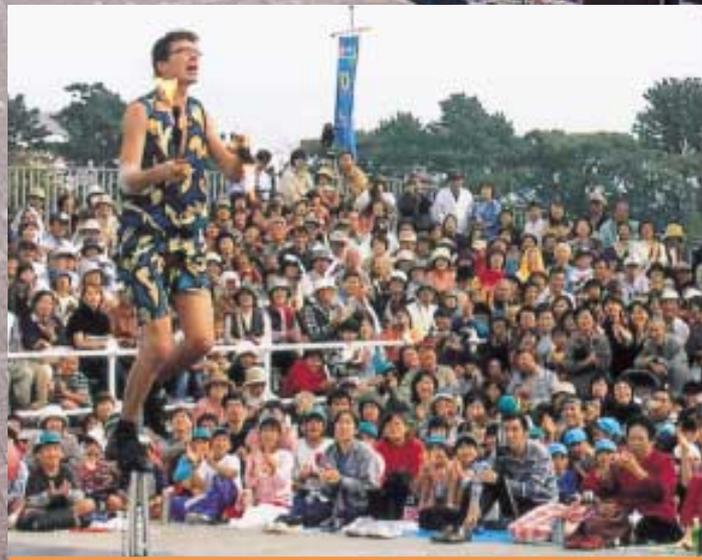


静岡県を魅力と活気あふれる地域として発展させるためには、社会・経済・文化・教育などあらゆる分野で地域の活力を生み出す人づくりが大切だ。地域を舞台にした大型イベントや日ごとの地域活動などを通して、それぞれの分野で人づくりの芽が育ちつつある。その芽の成長の先に、県民と行政が共有できる地域づくりの理想像が見えてくる。

地域づくりの キーワードは「人」



大道芸ワールドカップの華麗な演技に拍手を送る観客 = 静岡市の駿府公園



花と競演。満開の桜並木の下を練り歩く「姫様道中」
=細江町

住民の力で育つ 魅力ある静岡県

静岡県では平成12年に伊豆新世紀創造祭、翌13年に東海道四〇〇年祭と、地域をテーマにしたビッグイベントを開催した。行政主導のイベントと異な

り、各地域が企画・運営方法を考え、エントリーする住民参加型が特徴だ。参加した人々は、自分のふるさとが持つ多くの価値を見だし、対外的に発信することの意義を実感した。また同時に、地域活性化の源は住民自身の活力であるということを確認した。地域の未来にとって何が大切かを見透せる眼力。ひとつの目的に向かって人々をまとめ、調整する能力。そして人々のやる気を喚起させる情熱を持ち併せた人材。これは地域社会や地域経済のあらゆる場面で求められる人材の姿でもある。

県は平成10年に『静岡県人づくり百年の計委員会』を設置し、約2年にわたって議論を重ねた。そして、人づくりは県民が共通の認識や目標を持ち、地域社会が主体となって身近なところから行動に移していくことが基本として、子どもと家庭 子どもと学校 社会と人間 の3つの空間で **意味ある人をつくるために** という提言を

まとめた。この中で 社会と人間の取り組みとして、次の一文をおいている。

地域を通じて人と出会い、支えあい、まさに感動の体験をもつということは、伝統的に日本の文化の中での人づくりの基本でした。(中略) 非日常を体験するハレ(祭り)の時空間を、都市空間を含めて、できるだけ多くの人々に体験する機会を作ること、地域の活性化、人々の元氣につながります。(中略) そのような工夫によって、世代を超えた地域の人々が出会い、支えあい、共通の感動体験を持ち、地域が単に経済的にだけでなく、文化的、人間的なつながりによって活性化されれば、地域の大人たちが地域の子どもたちや若者の行動に日ごろから気を掛け、「声かけ」を行うて改善させることができます。さらに大人たち自身の行動を律することにも役立つでしょう。

フリーマーケットが開かれたくさんの人でにぎわいを見せる日の出マリンパーク 清水港





提言の最後は「静岡県では、どこの町もどこの村もしょっちゅう人づくりの話をしているよ」という噂が全国に広がり、日本中から『人づくり・静岡ソフト』を求めて人々がやってくることを願う」と結ばれている。

石川知事は「各イベントを通して人

材が育っている。その人たちを軸として活動の輪が県内に広がっていくと、静岡県の魅力も今以上に高まっていくでしょう。静岡県は何か魅力がありそうだから、そこに行つて活躍しよう、よそから人を呼び込む視点もとても重要。そうすれば県外や海外からも多くの人が集まってくると思う」と人づくりの施策に積極姿勢を示している。

では各イベントを通じて地域に芽生えたさまざまな人づくりの種を紹介しよう。

住民がロケ地の運営をサポート

伊豆新世紀創造祭では平成12年の1年間、伊豆全域を舞台に、各市町村や広域連携によるさまざまな観光イベントが開催された。ここで中心的な役割を担った人々が、伊豆の地域づくりを住民の手でプロデュースするための組織『NPO伊豆』を平成13年6月に設立した。伊豆内の地域活動団体や個人のネットワーク構築、地域づくりのための調査研究、相談・助言、コーディネートなどが主な事業だが、中でも注目されるのが『フィルムコミッション伊豆』の活動だ。

フィルムコミッションとは映画やテレビのロケーションをサポートする組織。ロケ地の紹介から撮影許可申請、宿泊や食事の手配、エキストラの募集までロケにかかわるあらゆる便宜を図る。伊豆は文字通りロケーションの宝庫。大小合わせれば月に10本以上の映像ロケが行われ、今までは各市町村・観光協会が窓口になって個別に対応してきた。フィルムコミッション伊豆はこれを一括し、積極的に売り込む目的で誕生した。平成13年9月の設立と同時に4本のテレビドラマロケのオフアワーが舞い込み、うち2本をワンストップサービス（相談・実務を一括して請け負う）で実施し、早くも業界から高い評価を受けた。

中心となるのは土肥町で俳優・橋爪



フィルムコミッション伊豆がすべて手配したロケ現場 = 天城湯ヶ島町

焼津市の地域おこし団体が挑戦した狼煙実演会に参加した「丸子宿わいわい会議」会員と住民らが見守る中、狼煙が上がった。焼津市



功さんらと菜の花舞台を仕掛けた大木清司さん、ロケ弁当の手配などで映像制作会社とコネクションを持つ森島正太さん（天城湯ヶ島町）、そして観光施設の内装工事を手がける傍ら、映像ロケをボランティアでサポートしてきた板垣敏弘さん（同）。彼らは伊豆新世紀創造祭をきっかけに出会い、意気投合したという。3人は「エキストラはだ

れでも気軽に参加できます。そしてエキストラになると、ロケに来たスタッフや俳優さんたちに地元がどう見られるか、実際に映像になってどう見えるか気になり、終わつた後、必ずといっていいほど地元のことを考えるようになる。これが地域を思いやるポトムアップの力になると思います。この活動の最大の目的は、映像を通して伊豆の魅力を見ることがなんです」と熱く語る。将来的には「国際フィルムコミッション協会」に加盟し、伊豆にハリウッド映画を呼び込もうと意気揚々だ。

東海道四〇〇年祭が きっかけに

平成13年に催された東海道四〇〇年祭は、街道の歴史的文化的の発掘や地域の新たな連帯感を醸成した実り多いイベントとなった。閉幕間もない平成14年1月、『丸子城狼煙リレー』を仕掛けた丸子宿わいわい会議（静岡市）では、狼煙リレーの継続と他の宿場町への広がりを目指し、新たな会議を始めた。「狼煙とはもともも原始的な情報伝達手段。高度情報化時代の今だからこそ、この原点を見直す価値があると思います」と代表の柴山信夫さん。狼煙を上



地元太鼓の披露



オープンを飾る宿場の木戸開き



多くの人でにぎわった大通り商店街

東海道大宿場まつり（三島市）

魅力ある教育づくり21世紀初頭プラン

目標項目	現在	21世紀初頭の目標値
朝読書、読み聞かせ等	一部で実施	実施率100%
環境教育・環境学習	一部で実施	実施率100%
実践的な防災教育	避難訓練等	実施率100%
メディア・リテラシー教育	一部で実施	実施率100%
美しく挨拶しよう運動	大半が実施	実施率100%
青少年声掛け運動(参加者)	4.45万人	30万以上

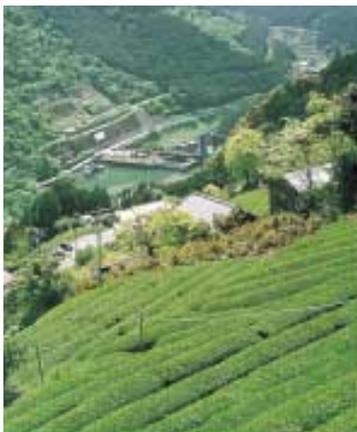
各地で進む 地域づくり

伊豆新世紀創造祭、東海道四〇〇年祭などのイベントをきっかけに地域の有形・無形の資産を見つめ直し、個性として磨きをかけ、外に向かって発信していく試みは、県内各地で進められている。伊豆では松崎町の自然を舞台にしたシーカヤック・マウンテンバイク等の団体レース、伊豆アドベンチャーレース、ユニバーサルデザイン化を進める観光施設など。東海道宿場町では磐田市見付地区の大名行列。これらの活動を通じ、地域づくりの人材が着実に育っている。

佐久間町の野田地区はお茶やシイタケを作る農家が肩を寄せ合い、暮らしを支え合うのかな山里。青空市などで野菜を売っていた農家のお母さんたちが、高齢化が進む地区に少しでも元気を呼び起こそうと昭和58年、山びこ

会というグループを結成した。折しも愛知県との県境に近い北条峠（北条峠）に、ふるさと創生資金を基に江戸末期の農家を移築した民俗文化伝承館が設置され、町から山びこ会に、この施設を利用し、そばを打って食べさせてもらえないかという依頼があった。そばはこの地区の農家の日常食。会長の亀久保保子さんは「そば打ちも含めた山里の暮らしの伝統を、若い世代にどう伝えるかが会の課題でした。みんなが集まる場所ができるのはありがたい」と快諾。土日と祝日のみの営業ながら、今では県内外からそば通が訪れる手打ちそばの名所となった。「町民は寄り合い所として利用し、町外からはそばを楽しみに多くの人がやってくる。交流人口が増えたことが何よりうれしいですね」と亀久保さん。その活動は、山里の暮らしに元氣とにぎわいを与えたと評価され、全国森林組合連合会会長賞にも輝いた。北条峠のほかにもグリーンツーリズムをテーマにした地域活性化の事例として温泉施設、特産品加工販売所などが各地で話題を呼んでいる。

学校でも人づくりの種は着実に芽吹いている。静岡市三番町小学校では8年前からPTAが主体となつて、児童に絵本の読み聞かせを行っている。毎月第2水曜日の昼休みに加え、春と秋の読書フェスティバルに保護者の有志38名が交代で図書室に赴き、全学年全学級を対象に行つた。まったくの素人だ



緑が美しい山間に広がる茶畑 = 龍山村



そば打ちを楽しむ人たちは佐久間町



江戸末期の農家を移築した民俗文化伝承館 = 佐久間町



図書ボランティアのメンバーが読む絵本に聞き入る児童たち = 静岡市の三番町小学校

った保護者たちは大学のスクーリングなどに参加して語り部の技を磨き、子どもが卒業した後もOBとして後進の指導に努めている。保護者OBで世話人の勝山高さんは「図書室を利用する子どもたちが増えたというメリットと同時に、私たちにとっても学校に出入りする機会が増え、地域全体で育てしようという機運が生まれています」と手こたえを語る。勝山さんたちの活動は保護者の主体性が特に評価され、平成12年、全国学校図書館協議会から「学校読書推進賞」を与えられた。

これからも県内では、魅力と活気あふれる地域をめざして多くの実践が試みられる。今年はサッカーワールドカップという世界レベルのビッグイベントが控え、来年以降も『NEW!! わかふじ国体』、『しずおか国際園芸博覧会』など大きなステージが用意されている。県外・海外からやってくる人々とのふれあいは、地元地域に対する県民の意識をさらに高めることだろう。その芽を地元でしっかり育てていく。そのことが「魅力あるしずおか」の礎となっていく。



2002 FIFAワールドカップ™の舞台となるエコパスタジアム = 袋井市

「地方の個性」「地方の自立」が叫ばれて久しいが、今ほど熱く語られる時代はないだろう。それは地域の魅力が、自ら生み出していくものだということ。県民も行政も自覚し始めたあかしといえる。